

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

(SF小説) ナクバの東 (二十四)

第一部「イスラエル、イラン核施設を空爆す」(二十一)

第七章 ナタンズ爆撃(一) ハイ・ロー・ハイ作戦(一一二)



サウジアラビアのハファル・アル・バテン基地北方を通過した3機の戦闘機は機首を北東に向けイラク領空を一気に駆け抜けた。眼下にシャトル・アラブ川の湿地帯が見える。いよいよイラン領である。パイロット達に緊張が走る。行く手にザグロス山脈の赤茶けた山塊が立ちはだかる。山脈を越えるとナタンズまでは指呼の間であるが、ナタンズの南方数十キロメートルのイスファハンにはイラン空軍の基地があり、いつスクランブルをかけられるかわからない。

パイロット達は臨戦態勢に入った。イスファハンのモスクのミナレット(尖塔)を視野に入れると三機は高度二万メートルから急下降を開始、天空から真つ逆さまに落下する三本の矢となった。超高空から一気に高度を下げ、目標を爆撃した後、直ちに超高空に戻る「ハイ・ロー・ハイ」作戦の第二段階である。

(続く)

荒葉一也
(From an ordinary citizen in the cloud)